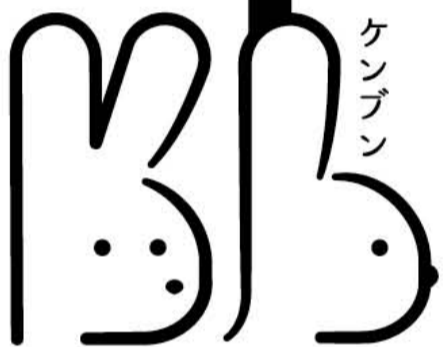


KENBUN JOURNAL

新しいケンブン

New Culture, New Experience
愛媛県民文化会館



ケンブン

COVER 原田慶太楼 × HIMARI



©MASATOSHI YAMASHIRO



©Hitoshi Iwakiri

LIVE

伊予銀行 presents 2025.6.7
読売日本交響楽団 愛媛公演2025



©読売日本交響楽団

KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

愛媛県民文化会館、購読「ケンブン」から
ケンブンを楽しむための情報をお届け！

Vol.006
2025



アンケートにご協力ください

ケンブンジャーナル編集部 kenbun_journal@ect.or.jp

よりよい紙面づくりを目指すため、左記の2次元コードから、ご意見・ご感想をお寄せください。

【個人情報の取扱いについて】個人情報は読者のために使用しますが、お寄せいただいたご意見は愛媛県民文化会館のホームページや刊行物などに掲載させていただくことがあります。ご本人の承諾のない限り、前述の目的以外に使用、第三者に提供することはありません。

Issue

えひめ文化振興コンソーシアム

〒790-0843 愛媛県松山市道東町2丁目5-1 TEL.089-923-5111
<https://www.kenbun.jp/>

TAKE FREE

ARTIST INTERVIEW

「私にとって音楽とは
世界共通語」
心に響く音楽を
お届けします」

指揮

原田慶太楼

(1)

EHI ME CULTURE

広報・たぬ子の

ゆかりアーティスト

interview

KENBUN COLUMN

ケンブンケンガク

エヒメ文化を語る

ケンブンの人のお仕事

県文と私

ケンブン周辺見学



©T.Tairadate/TSO

FEATURE

私にとって音楽とは
“世界共通語”
心に響く音楽を
お届けします

指揮 原田慶太楼

PROFILE

欧米を中心に活躍を続ける期待の俊英。現在、アメリカのサヴァンナ・フィルの音楽&芸術監督、東京交響楽団正指揮者、愛知室内オーケストラ首席客演指揮者を務めている。これまでにタンブルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、23年に日本人初のトップのコンダクター賞などを受賞。

Q.1
HIMARIさん、読売日本交響楽団との共演です。それぞれの魅力は？

HIMARIさんの魅力は、何と言っても若さあふれる情熱とそれを支える確かな技術、そして音楽に対する深い理解力です。以前、群馬交響楽団との共演で彼女と舞台を共にしましたが、まさに魔法のような体験でした。音楽に対して純粋な心を持った、誠実な音楽家だと感じました。今回は、彼女のさらなる成長を目の当たりにすることができるのではないかと、とても楽しみにしています。読響は言うまでもなく、日本のオーケストラのなかでもトップクラスの実力と伝統を誇る素晴らしい楽団です。アンサンブルの精緻さ、音色の美しさ、音楽に対する真摯な姿勢にはいつも感銘を受けています。

Q.2
本公演の聴きどころをお願いします。

非常に人気のある名曲を組み合わせた魅

力的なプログラムで、クラシック音楽ファンはもちろん、初めてクラシック音楽を聴く方にもおすすめです。シベリウスのヴァイオリン協奏曲は、北欧の自然を感じさせる叙情的な旋律と、ヴァイオリンの技巧を凝らした華麗なパッセージが特徴です。特に第1楽章のカデンツァは、ヴァイオリニストの腕の見せどころであり、聴衆を魅了することでしょう。HIMARIさんの演奏で、この曲の持つ情熱と繊細さがどのように表現されるのか、非常に楽しみです。ベートーヴェンの交響曲第7番は、力強く躍動感あふれるリズムが特徴で、「リズムの交響曲」とも呼ばれています。第2楽章の荘厳な雰囲気、第3楽章の軽快なスケルツォ、そして第4楽章の圧倒的なフィナーレと、変化に富んだ構成も魅力です。

Q.3
指揮者として大切にしている思いなどはありますか？

作曲家の魂とつながること。作曲家の意図を

最大限に尊重し、それをオーケストラと共有しながら、聴衆の心に響く音楽を創造することです。そのためには楽譜を深く読み込み、作曲家の時代背景や作曲に至るまでの経緯などを理解することが重要だと考えています。また、オーケストラのメンバー一人ひとりの個性を尊重し、彼らの才能を最大限に引き出すことも指揮者の大切な役割です。

Q.4
愛媛で楽しみにしていることは？

愛媛に行くのは初めてです。松山城は歴史番組などでもよく紹介されていて知っていますが、これから街や食べ物のことを調べて、演奏の合間に楽しめたらいいと思います。

Q.5
読者へのメッセージをお願いします。

HIMARIさん、読響の皆さまと心をつなげて、最高の音楽を愛媛の皆さまにお届けできるよう全力を尽くします。ご来場を心よりお待ちしております。



伊予銀行 presents
読売日本交響楽団 愛媛公演2025
原田慶太楼×HIMARI
6月7日(土)14:00(13:15開場)
@メインホール

欧米を中心に活躍する原田慶太楼を指揮者に、13歳のヴァイオリニストHIMARIをソリストに迎え、シベリウス、ベートーヴェンの名曲を響かせる。

問/089-927-4777
(公益財団法人 愛媛県文化振興財団)
※チケットは好評につき完売いたしました

INFORMATION

EHIME CULTURE

エヒメカルチャー

絶対にお客さまを
ひとりぼっちにしない

伝統文化からサブカルチャーまで愛媛にゆかりのあるアーティストに広報のため子がインタビュー

音楽がもつ“表現の中での自由”に惹かれ、幼少期から多くの楽器に触れてきた渡部寿珠さん。小学生のとき、サクソに憧れてバンド部へ入部した彼女だったが、じゃんけんで負けてしまいフルートを吹くことに。だが、中学校の吹奏楽部で充実した3年間を過ごすうち、自然と「フルートで人を幸せにできたらいいな」と思うようになったそう。「聴いている人をひとりぼっちにしない」をモットーに活動する彼女は、公演のお客さまやレッスンの生徒一人ひとりに寄り添い、演奏している。今後の活動について「大きな夢ですけど」と謙遜しながらも、「愛媛のさまざまな楽団とコンチェルトで共演すること」だと、

次のステップを意識した目標を教えてくれた。

ARTIST

フルート/ピッコロ奏者
渡部寿珠さん

桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻管楽器専修を1位の成績で卒業後、桐朋学園大学音楽学部に入入学し、卒業。同研究科を修了。現在は愛媛県に拠点を置く。



@s228xz

@suzu_watanabe

たぬ子が
見るケン、
聞くブン！

ゆかりアーティスト
interview

vol.6

もっと読みたい方は
コチラ▶



愛媛の芸術・文化 広報・たぬ子



ARTIST

イラストレーター/銅版画家 村上千彩さん

大学卒業後、編集の仕事に携わったのち、1999年よりイラストの仕事始める。また版画工房アトリエ凹凸で銅版画を学び、2000年より個展を開催。2014年愛媛に拠点を移す。

村上千彩さんは「人の手でコントロールできないところが銅版画の魅力だと思います」と話す。版を腐食液につけることで思いがけない質感が生まれるなど、予想を超える仕上がりになることもあるのだとか。本を読むことが好きな彼女は、書籍や写真集から作品の着想を得ることが多く、思い浮かんだ場面を元にアイデアや構図を書き留める。描くうちに変化していくこともあるが、「自分が描きたい世界の空気が絵に流れていたら正解」という想いで作品と向き合っている。2017年から主催している「お寺市」では、「展示会へ行くというハードルを下げたい」と、グループ展「小さな版画展」をプレオープン。気軽にアートを楽しめる環境づくりに尽力している。

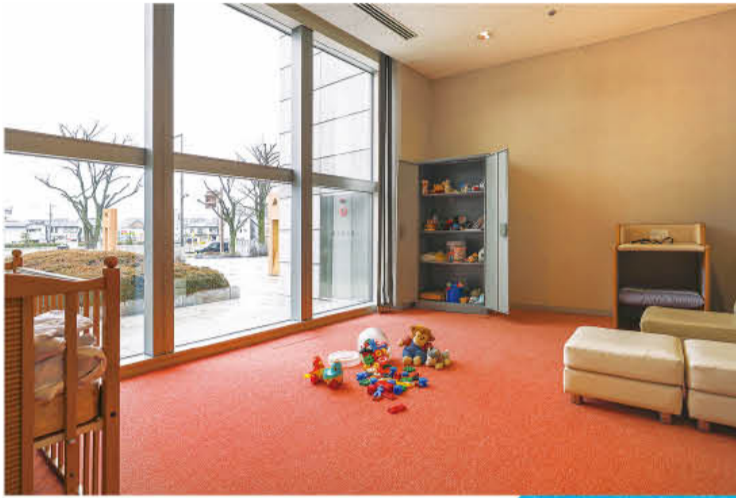
思い通りに
いかないと
銅版画の
魅力

KENBUN KENGAKU

ケンブンケンガク

知らない人も多い(かもしれない)けど、ケンブンって実は名建築。建物のトリビアから普段、見ることができない裏側まで紹介

THEME [子どもにやさしいケンブンです!]



01 託児室



02 サブホール母子室



03 メインホール母子室

01 靴を脱いで過ごせる託児室。託児室利用可能な催しでなくても、オムツ交換や授乳等で個室が必要になった場合は1階事務室へ声をかけてみて 02 サブホールの母子室。ここからの眺めもなかなかのもの! 03 メインホールの母子室にはベビーベッドが2つある

就学前の小さな子どもも楽しめる舞台やコンサート、イベントなどを数多く行っているケンブン…今号のタイトル回収はそこではない。館内に「託児室」と「母子室」があったって、知ってた? 託児室は1階事務室の奥にあり、ベビーベッドやオムツ交換台、おもちゃやぬいぐるみ、絵本が置かれている。母子室はホールで観覧中、子どもが落ち着かないときに利用できる部屋。メインホールは3階、サブホールは1階にあり、スピーカーを通して音声を聴きながらガラス越しにステージを観ることができる。こちらにもベビーベッドがあり、子どもたちはリラックスして過ごせるはず。いずれもケンブンの利用客を対象にした部屋なので、その催しで利用可能かどうかは主催者へ問い合わせる(託児サービス等、事前に申し込みが必要な場合あり)。1階西側の女性専用トイレそばにもオムツ交換台が置かれ、こちらは空いていればいつでも利用できる。ケンブンは小さな子ども連れのパパもママも、安心して足を運べる場所なのだ。

ケンブンのお仕事

KENBUNJIN NO OSHIGOTO

ケンブンで働く人の現場に潜入!



音は座席の位置によっても響き方が違うので、細かい調整が大切!



音響
加倉井 真さん

音響とはベストな音を客席に届ける仕事で、進行表どおりにマイク(声)や音楽、効果音などの音出し、大きさの調整を行う。「一番難しいのは声。特に式典などはぶっつけ本番なので、気が抜けません」と話す。物腰柔らかな加倉井さんが、「求められたことを完璧にこなす」という強い信念をもっている。その人にとっての晴れ舞台の瞬間一瞬を、一生の思い出にするためだ。

県文と私

KENBUN TO WATASHI

県文との思い出を語る

by 「島のモノ 喫茶 田中戸」店主 田中章友さん

今でこそ、県文でマルシェにキッチンカーは当たり前ですが…何年か前、私が出店した「おきなワフェス」が初めてだったと記憶しています。私たちが慣れないことが多く大変でしたが、主催者は県文でキッチンカーを出店する許可を取るなど、かなり苦労があるんだろうと見ていました。そんな皆さんの苦労を乗り越えての今なので、「イベントが成功したらいいな、愛媛のためにしたい!」…そんな気持ちで今もマルシェに参加しています。



県文との思い出募集中

ケンブン周辺見学

KENBUN SURROUNDING TOUR

ケンブン近くの素敵なお店や施設を紹介



道後一会(とうごいちえ)

道後の造り酒屋・水口酒造が手掛ける蔵元直売店&カフェバー。「道後ビール」やコーヒーを楽しみながら、日本酒をはじめ、焼酎やクラフトジンなどさまざまなお酒が購入できる。酒蔵見学など蔵の魅力を感じられるイベントも。道後ならではのゆったりとした時間を過ごそう。

住/松山市道後喜多町3-18
電/089-924-6617
営/10:00~17:00
休/無休



あれやこれやのテンヤワンヤがありまして、ドッコイ、ねこは生きてるよ! ねこというのは執念深いのが本性で、しぶとくやっています。周りの芝居屋のねこたちが、場が無くなってどうすんだよ〜とか弱いねこに迫るのです。わたしやもうあちこち彷徨いながら17年間も民間劇場やっただから堪えてくださいよ、と申し上げたのですが「NECOの会」なる訳の分からないものを立ち上げ、あちこちに声をかけて勉強会なるものを始めました。思わず「演劇だけが文化芸術じゃないでしょ」と、白を切りながら彷徨い続けるのです。

6歩目
放浪の旅に出るねこ

シアターねこ 鈴木美恵子さん
シアターねこ代表、NPO法人シアターネットワークえひめ理事。松山に表現の場を提供し、松山の演劇に関わる場所をつくりたいと活動。



昨今のライブではアンコールありきが定番で、手拍子と共に歌ったりコールしたりとお決まりのやり取りまであることも。もちろん「やりません!」というスタンスのアーティストもいるが、8割方は最初からセットリストに組み込まれているように思う。けれども本来アンコールとは「おかわり」なので、すでに演奏した曲をもう一度演るとのこと。本編で演奏しなかった曲を追加で演奏するというものではない。一度だけそんなアンコールに出くわしたことがあるが、アーティストのサービス精神はうれしいものだが…それを当たり前だと思ってしまう、ということをおぼろしく思い出す最終回。

6曲目
蛇足話。音楽的。おかわりこそ、アンコール。



エディター・ライター 渡邊麻子さん

愛媛在住20年目。年間のライブ参戦数は平均70本~90本程度。音楽的にはとにかく雑食なので、好きなジャンルを聞かれますと困ります。



これは終演直後会場に貼り出されたセットリスト。この日は急遽1曲追加された



時には轍を辿ったり、描いたり。

その⑥【THEME】バック・トゥ・ザ・フューチャー?

最近買取りした本の中にウン十年前の『月刊タウン情報まつやま』が数冊紛れ込んでいたんだけど、これが滅法面白い。1981年3月号の巻頭特集は「街角の古本屋さん紹介」ときた。ぼくが通っていた坊っちゃん書房と明屋書店古書部も載っている。いやあ懐かしい。他にも草野球チーム紹介や、「ディナーの楽しめるお店Best16」、「特選中古車情報」に「なんでも伝言板」だとか、とにかくローカル色豊か。過去の自分に会いたくなったら当時の雑誌を開け!ってこと。このコラムも最終回。そろそろ未来へ戻る時間が来たようです—。

本の轍 越智政尚さん

春日町にて小さな本屋『本の轍』を営む。暮らしとアートに特化した古書、新刊、雑誌などを取り扱う。イベントや展示も行い、文化の発信の場となっている。



KENBUN SCHEDULE



2025.4-6

※本文中のデータは2025年3月10日現在のものです。チケットが売り切れの場合があります。また予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

- M メインホール
- S サブホール
- 真 真珠の間
- 県 県民プラザほか

M 荒牧陽子×Mr.シャチホコ Special LIVE

4月13日(日)15:00～(開場14:30)

歌うまものまね芸人2人によるスペシャルライブ。荒牧陽子の圧倒的歌唱力と、Mr.シャチホコのものまねレパートリーの幅広さは必見! この場限りのライブパフォーマンスをぜひ会場で。

間/089-921-2121(株式会社 あいテレビ)
¥/全席指定5,000円 ※未就学児の入場は不可



S おとぎと魔法の劇場 松山公演

6月1日(日)①11:00～(開場10:30)、
②14:00～(開場13:30)

名作文学「不思議の国のアリス」を下敷きに、さまざまなおとぎ話のキャラクターたちと過ごす不思議な旅を描く。マジックや演劇などバラエティに富んだ演出は、ユニーク&ファンタジック!



間/089-927-4777(公益財団法人 愛媛県文化振興財団) ¥/中学生以上1,500円、子ども無料 ※子どものみの入場および未就学児の入場は不可

S 東亜樹コンサート

4月28日(月)14:00～(開場13:30)

数々の賞を受賞する令和の歌姫、東亜樹による歌謡コンサート。昭和歌謡を中心に世界の名曲を歌い継ぎ、海外でも活躍する17歳の歌声がホールに響きわたる。

間/090-5169-3906(東亜樹愛媛後援会) ¥/入場無料



真 マイナビ就職セミナー 松山会場

4月12日(土)13:00～17:00(開場12:00)

マイナビインターンシップ&
キャリア発見フェア 松山会場

5月11日(日)13:00～17:00(開場12:00)

愛媛県内外からさまざまな業種の企業が来場する、新規卒向けの就職セミナー。HPに「合同説明会をフル活用するための準備ガイド」が掲載されているので、参加前に要チェック。HPより要予約。

間/shikoku-event@mynavi.jp(マイナビ四国イベント事務局) ¥/入場無料

県 KENBUN MORNING MARKET

【vol.4】4月20日(日)10:00～14:00

珈琲と古いもの(県民広場)

【vol.5】5月18日(日)10:00～13:00(予定)

(県民プラザ)

毎回テーマを変えて開催する朝市。食や雑貨、ペーグルや古物、珈琲など、こだわりの店舗が出店。



間/089-945-1139(株式会社 エス・ビー・シー) ¥/入場無料



S 真

おきなわフェスタ
in 四国2025

5月5日(月・祝)11:00～17:00

- ・映画『戦雲 -いくさぶむ-』上映 (11:30～、14:20～/一般1,000円、高校・大学生500円、中学生以下無料)
- ・えひめ泡盛まつり(開宴18:00/入場料5,000円※20歳未満入場不可)

5月6日(火・振休)10:00～16:00

- ・スペシャルコンサート(開演18:00/前売4,000円、当日5,000円、小学生以上有料)

オリオンビールや沖縄そば等の飲食物や物産品など、沖縄の各逸品が大集合! エイサーや三線、壁掛けシーサーづくりなどの体験コーナー(一部、要予約・料金別)も充実しているので、この機会に沖縄の文化に触れてみよう!

間/089-986-7668(おきなわフェスタ in 四国実行委員会事務局) ¥/入場無料

県文見聞録 vol.6



ちょっと特別なレストラン



イラストレーター misato
松山市在住。クソツと笑えるキャラやイラストが得意。似顔絵グッズや企業キャラデザイン等も。



撮影者:阿部章仁

4月19日(土)販売開始!
劇団四季 ミュージカル『赤毛のアン』

生誕150年を迎えてもお世界で読み継がれている『赤毛のアン』。「世界最高のアン」と称された劇団四季のミュージカルがケンブんに! 4月19日(土)10時より「SHIKI ON-LINE TICKET」販売開始(四季の会は12日(土)10時)、さらに21日(月)9時よりケンブン2階・第2事務室でも販売(平日9～17時、対面販売のみ)。

劇団四季 ミュージカル『赤毛のアン』

7月15日(火)開演18:30 間/0570-008-110(劇団四季 全国営業部)
¥/S席10,000円(四季の会料金9,000円)、A席8,000円、B席5,000円
※3歳以上有料、3歳未満の入場は不可

チケット販売のお知らせ

RESTAURANT INFORMATION



レストランのお知らせ

春の集まりに、ケンブンのレストラン宴会

30～100人規模での利用に最適なケンブン1階での「レストラン宴会」。この春より、席料一人500円(税込)で利用できる。ピュッフェ形式や卓盛り形式など料理は5,000円から、席料と合わせても一人5,500円で楽しむことができる(別途ドリンク代)。春の集まりにぜひ。

宴会のご予約:089-911-0980(株式会社 ベルモニー)

KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

2025 vol.006

企画・発行: えひめ文化振興コンソーシアム

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL 089-923-5111

<https://www.kenbun.jp/>

ケンブンジャーナル編集部: 愛媛県県民文化会館内 企画・編集: 藤崎純子・河内春香・植松郁香・河野英一郎(以上えひめ文化振興コンソーシアム)、松下亮介・和氣敬徳・高須美登里・池川ゆかり デザイン: 林真央・土居麻巴香・西田衣織(以上エス・ビー・シー) 印刷: セキ株式会社 2025年3月24日発行/※掲載データにつきましては、2025年3月10日現在のものです。情報の内容は変更される場合があります。本紙記事、写真等の無断複製、及び転載を禁じます。

H P Instagram Facebook



Next Issue

2025年5月発行